

江南市立地適正化計画

【資料編】

江南市

目 次

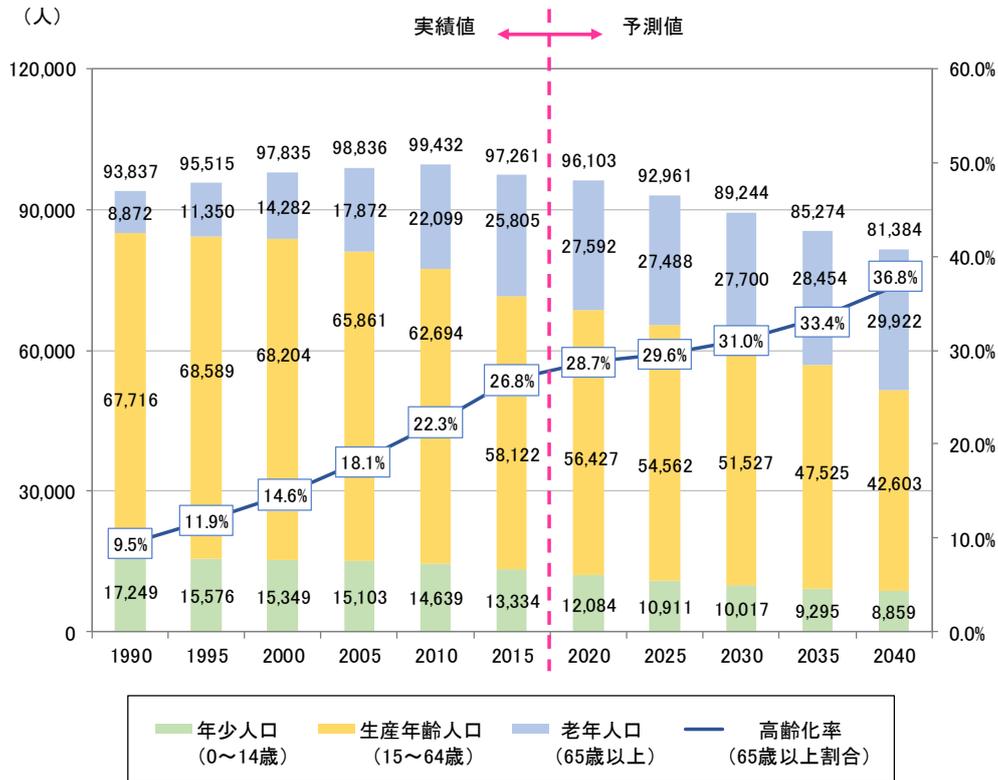
1	人口の将来見通し（立地適正化計画策定時）	資-1
(1)	将来人口の推計（2015年～2040年）	資-1
(2)	人口分布の推移（2015年～2040年）	資-2
(3)	人口増減の推移（2015年～2040年）	資-3
(4)	高齢者人口の増減の推移（2015年～2040年）	資-4
2	災害リスク分析	資-5
(1)	災害リスク分析の視点	資-5
(2)	災害危険区域と都市情報の重ね合わせによる災害リスク分析 ..	資-7

1 人口の将来見通し（立地適正化計画策定時）

（1）将来人口の推計（2015年～2040年）

本市の人口は、2010年をピークとして減少に転じ、2015年現在の人口は97,261人となっています。2040年の予測値は81,384人であり、今後25年間で約17%の人口減少が予測されています。

また、高齢化率は増加傾向にあり、2040年時点で36.8%まで高まると予測されています。



資料：国勢調査（H27）、国立社会保障・人口問題研究所（H30）

（注）2015年までの数値については、年齢不詳は含まれていないため、必ずしも年齢階層ごとの合計は市の人口と一致しない

■年齢別人口及び高齢化率の動向

(2) 人口分布の推移 (2015年～2040年)

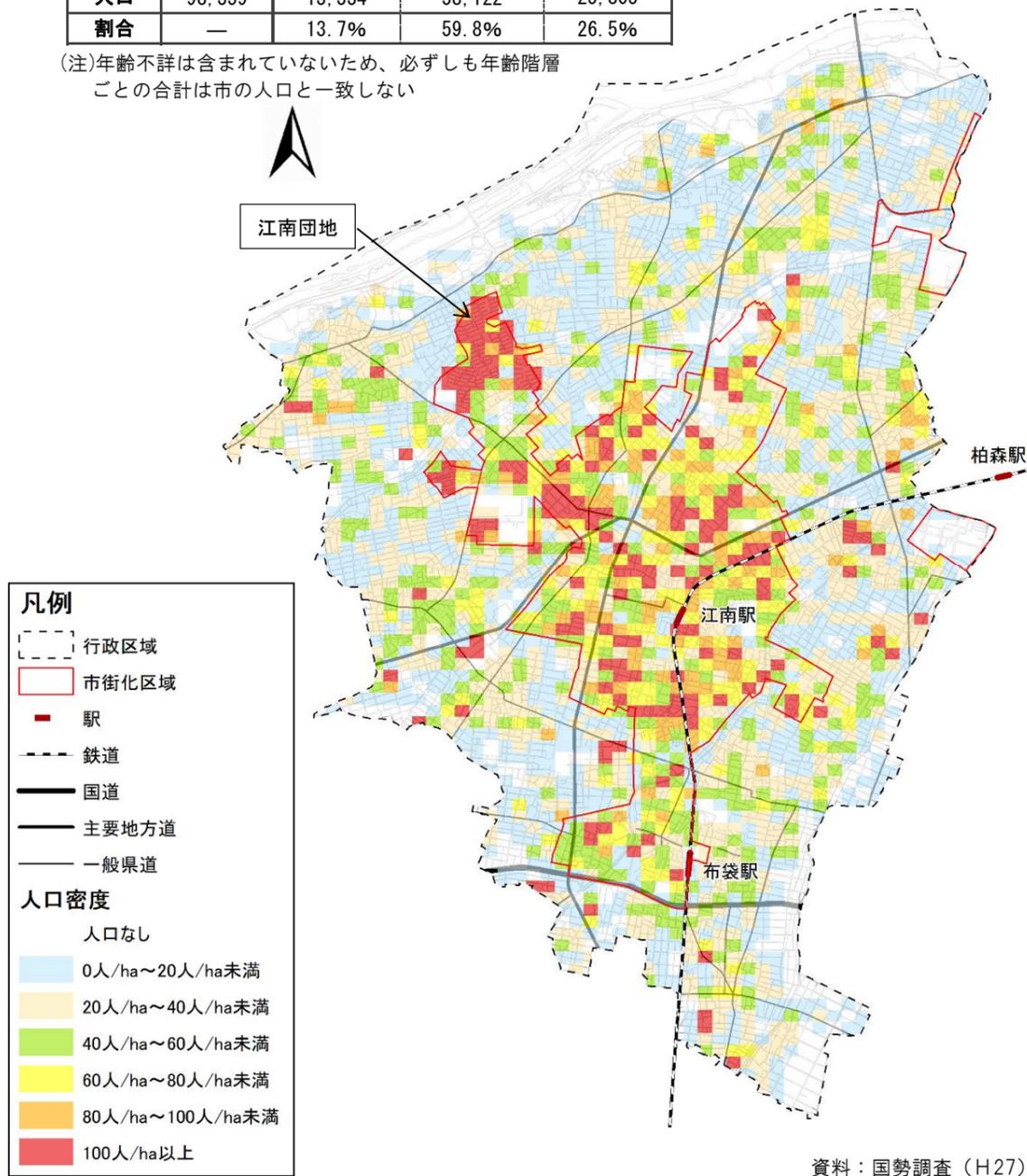
江南駅を含む市街化区域の中部から北部にかけて、主に 80 人/ha 以上の人口密度である地区が広がっており、なかでも江南団地周辺に人口が集中しています。布袋駅を含む市街化区域の南部では、主に 60 人/ha 未満の人口密度である地区が広がっています。また、本市は市街化調整区域においても、人口が広く分布しています。

今後 25 年間の中で、市全域で約 17%の人口が減少すると予測されている中、人口密度においても市全域にわたって低下すると予測されます。

	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口
人口	98,359	13,334	58,122	25,805
割合	—	13.7%	59.8%	26.5%

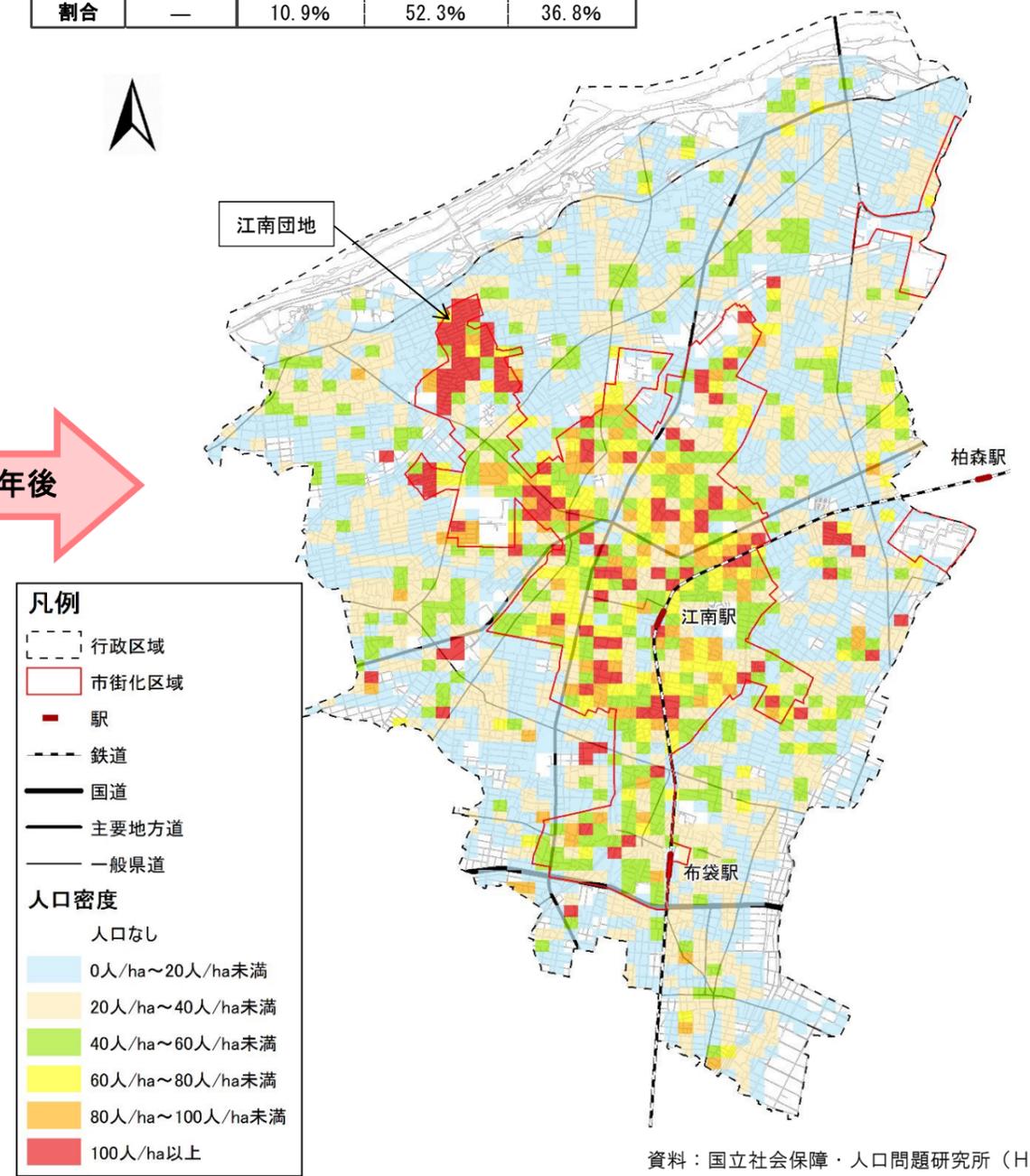
(注)年齢不詳は含まれていないため、必ずしも年齢階層ごとの合計は市の人口と一致しない

	総人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口
人口	81,384	8,859	42,603	29,922
割合	—	10.9%	52.3%	36.8%



■総人口分布状況図 (2015年)

資料：国勢調査 (H27)

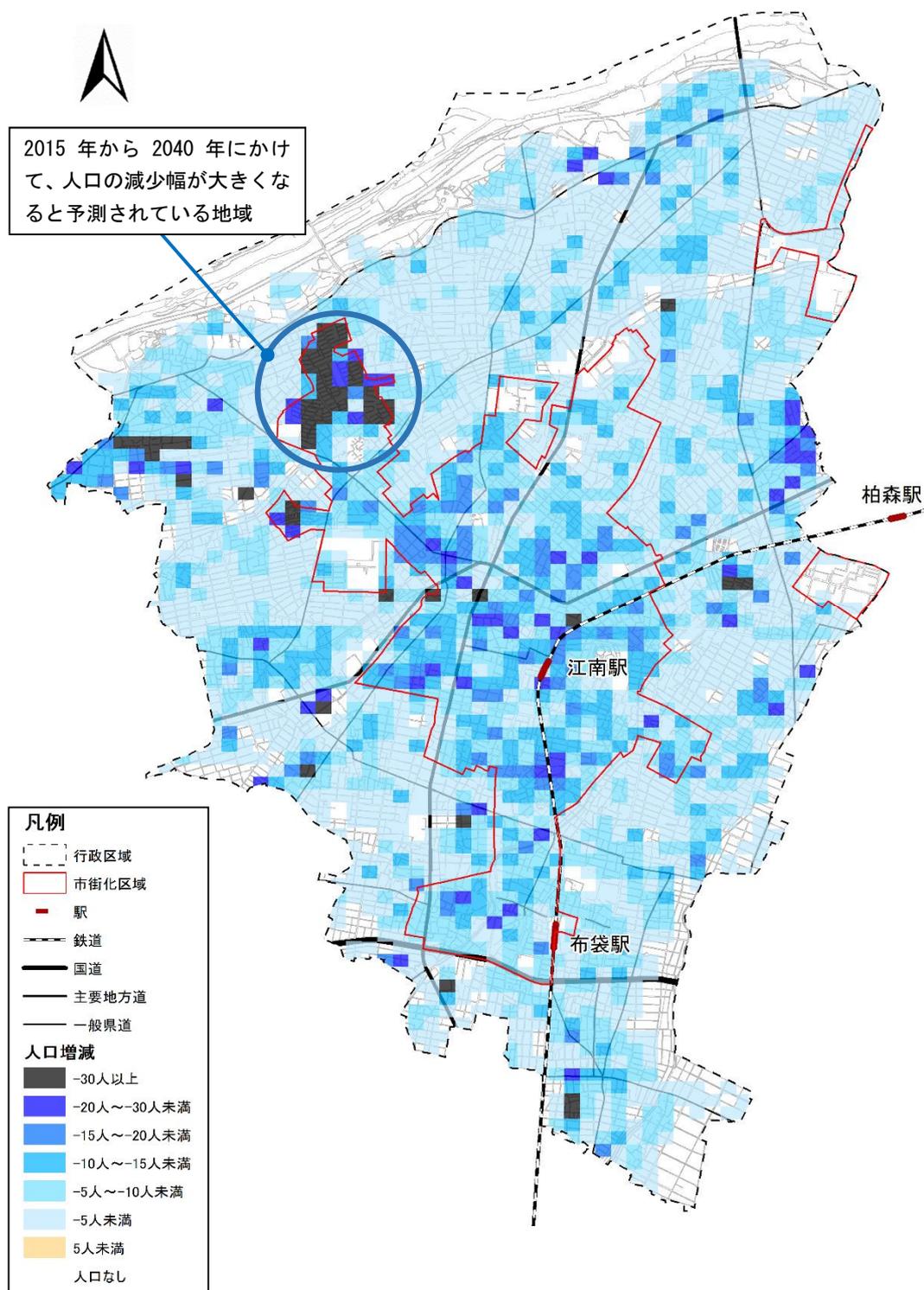


■将来推計人口分布図 (2040年)

資料：国立社会保障・人口問題研究所 (H30)

(3) 人口の増減の推移 (2015年～2040年)

市全域で人口密度が低下すると予測される中、特に、江南団地周辺や市街化調整区域の一部地域において、人口の減少幅が大きくなると予測されます。

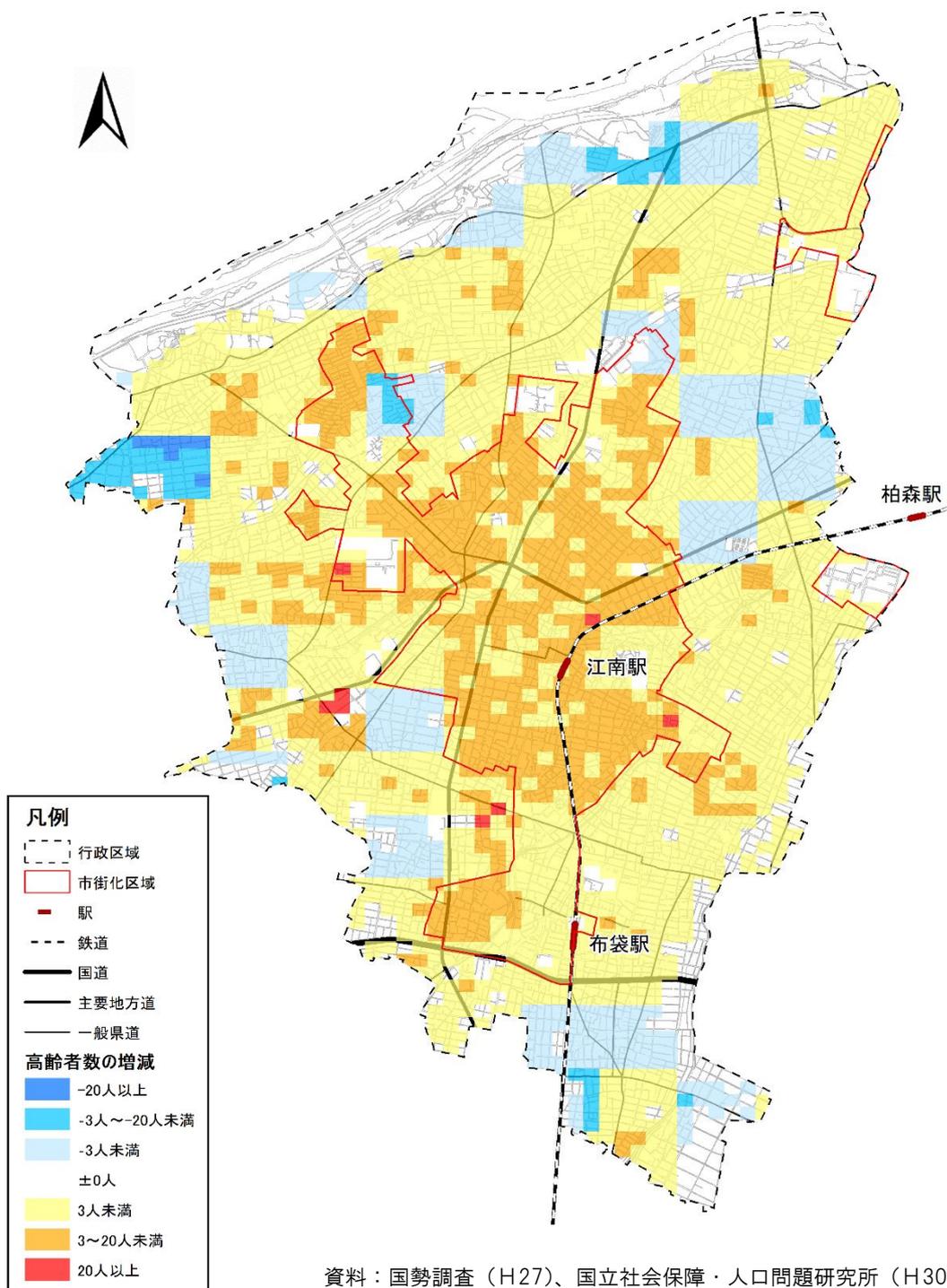


資料：国勢調査（H27）、国立社会保障・人口問題研究所（H30）

■人口増減数の推移（2015年～2040年の増減数）の状況図

(4) 高齢者人口の増減の推移 (2015年～2040年)

市全域で高齢者人口は増加すると予測されており、特に市街化区域内においては増加数が大きくなると予測されます。



■ 高齢者人口増減数の推移 (2015年～2040年の増減数の状況図)

2 災害リスク分析

(1) 災害リスク分析の視点

災害リスク分析は、災害ハザード情報と都市情報（人口、建物（住宅）分布、各種施設分布等）を重ね合わせて行います。各災害リスク分析における分析の視点を以下のとおり整理します。

ハザード情報		都市情報	分析の視点
外水氾濫 (洪水)	浸水想定区域	人口	人口の分布状況より、災害リスクの高い地域において人口が集中しているエリアを把握する。
		建物 (住宅)	災害リスクの高い居住地を把握する。
		避難所	避難可能な場所に避難所が立地しているか確認する。
		要配慮者 利用施設	避難が必要となる場所に立地している要配慮者利用施設 ^注 を把握する。 注：避難確保計画等の作成対象となる要配慮者利用施設（令和5年度末時点）
	浸水継続時間	建物 (住宅)	浸水の継続により孤立する可能性がある区域に立地している建物（住宅）を把握する。
	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)	建物 (住宅)	居住誘導区域において河岸侵食が想定される区域に立地している建物（住宅）を把握する。
家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫流)	—	— 居住誘導区域に氾濫流が想定される区域はないため、災害リスク分析の対象としない。	
内水氾濫 (雨水出水)	浸水実績	建物 (住宅)	居住誘導区域において過去の豪雨災害時に浸水した区域に立地している建物（住宅）を把握する。

【参考：要配慮者利用施設】

水防法に基づき、避難確保計画の作成や訓練の実施等が求められる施設として江南市地域防災計画に定める浸水想定区域内の要配慮者利用施設の種類の種類は以下のとおりです。

分類		種類
医療		病院（病床数 20 床以上）
子育て		幼稚園、保育園、認定こども園、学童保育所、児童館など
教育		小学校、中学校
福祉	介護福祉	施設サービス：特別養護老人ホーム、老人保健施設など 居住系サービス：グループホーム、介護付き有料老人ホームなど 在宅サービス：通所介護など
	障害者福祉	生活介護、施設入所支援、共同生活援助、短期入所、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援、地域活動支援センター、放課後等デイサービス、児童発達支援、児童発達支援センターなど

(2) 災害危険区域と都市情報の重ね合わせによる災害リスク分析

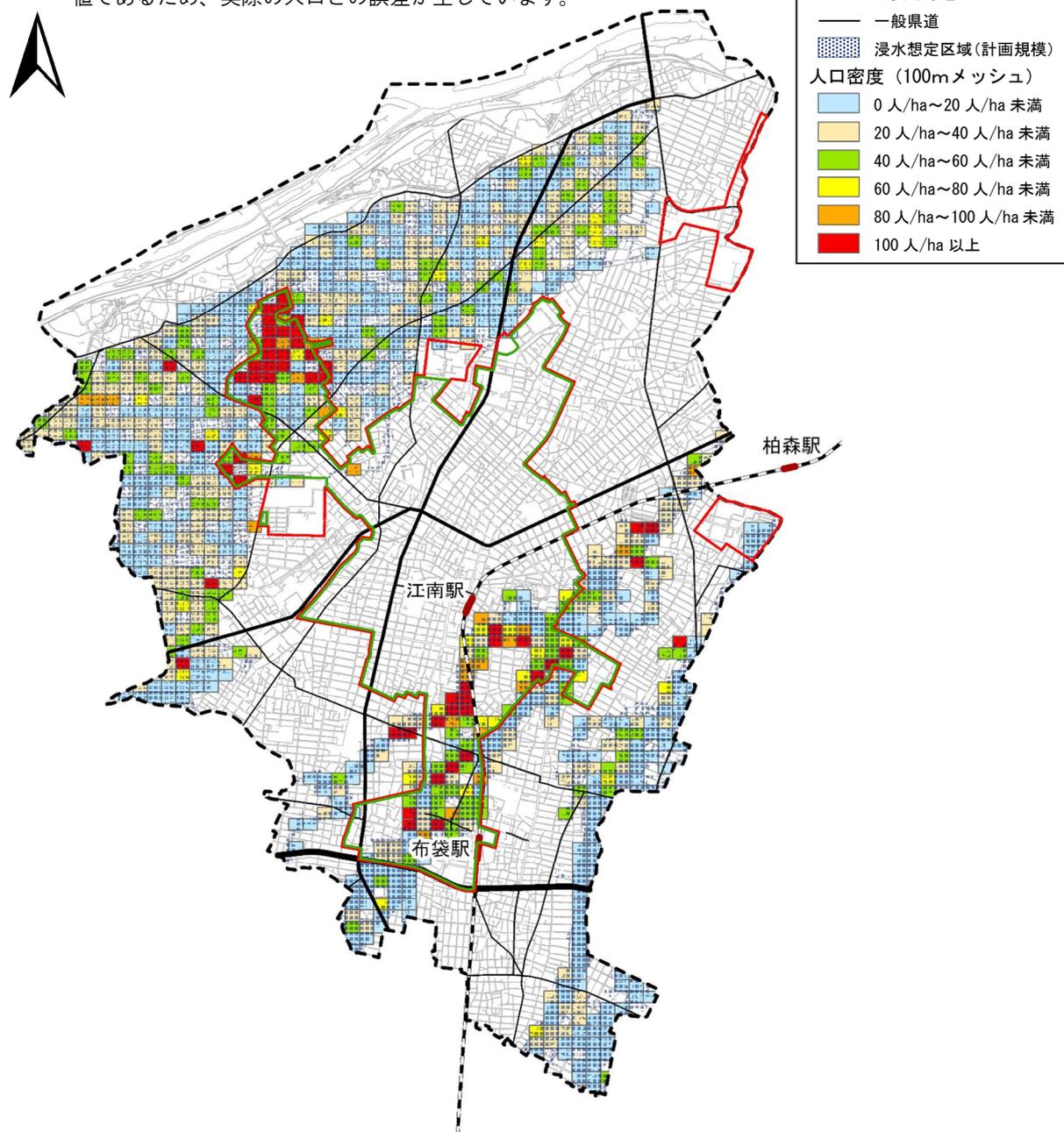
前項で整理した分析の視点を踏まえて、各災害リスク分析を行った結果を示します。

1) 浸水想定区域【計画規模：L1】×人口

居住誘導区域の人口の約3割にあたる約11,000人が浸水想定区域（計画規模）内に居住しています。

		市域	市街化区域	居住誘導区域
全域	人	102,887	46,133	44,988
浸水想定区域内	人	31,130	11,357	11,237
【計画規模：L1】	%	30.3	24.6	25.0

(注) 本項目における人口の集計はGISのメッシュデータ上で集計した数値であるため、実際の人口との誤差が生じています。

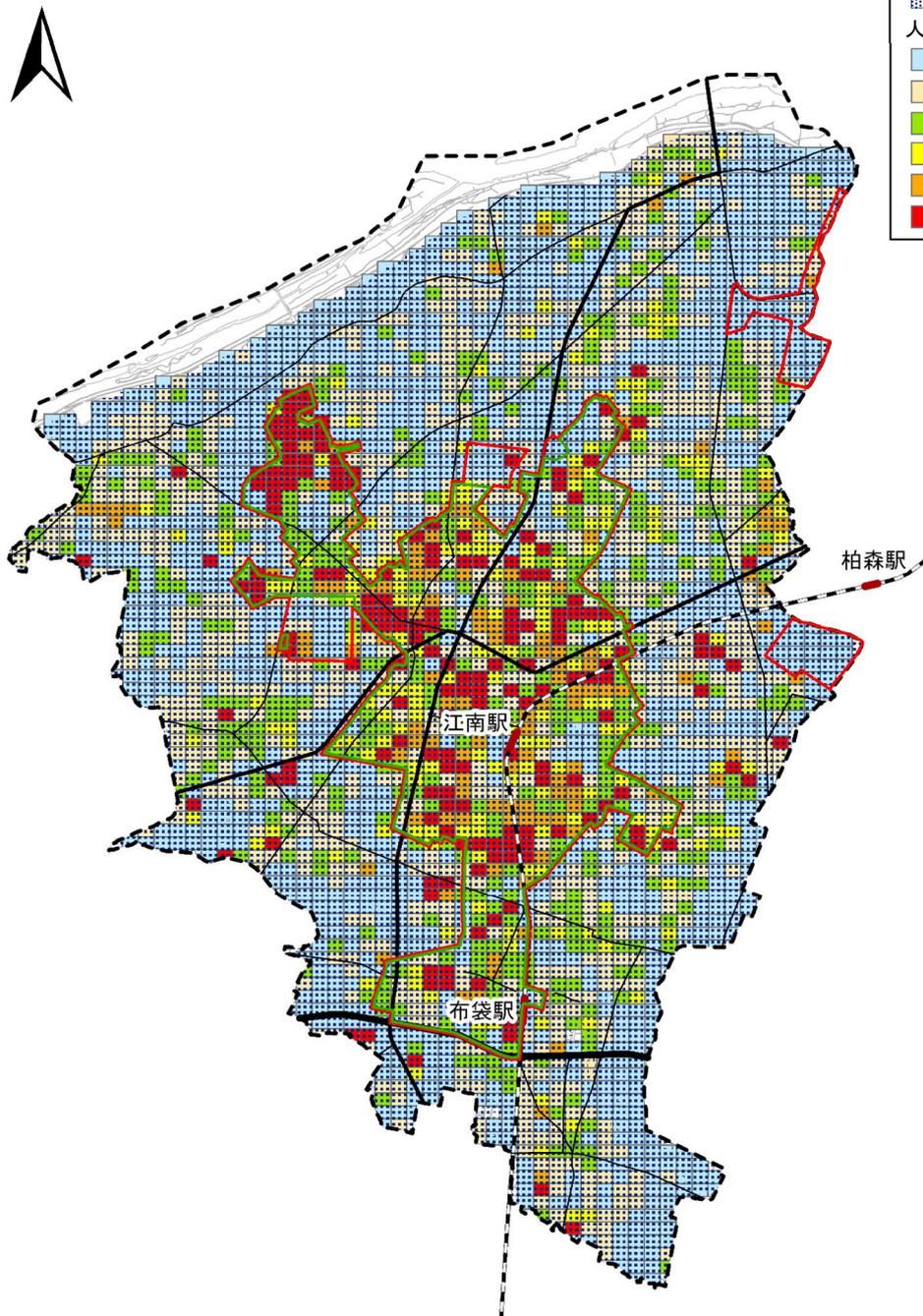
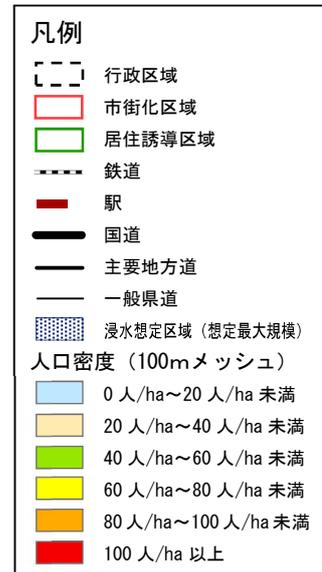


2) 浸水想定区域【想定最大規模：L2】×人口

居住誘導区域の全域が浸水想定区域（想定最大規模）内に該当し、約 45,000 人が浸水想定区域内に居住しています。

		市域	市街化区域	居住誘導区域
全域	人	102,887	46,133	44,988
浸水想定区域内	人	102,793	46,133	44,988
【想定最大規模:L2】	%	99.9	100.0	100.0

(注) 本項目における人口の集計は GIS のメッシュデータ上で集計した数値であるため、実際の人口との誤差が生じています。

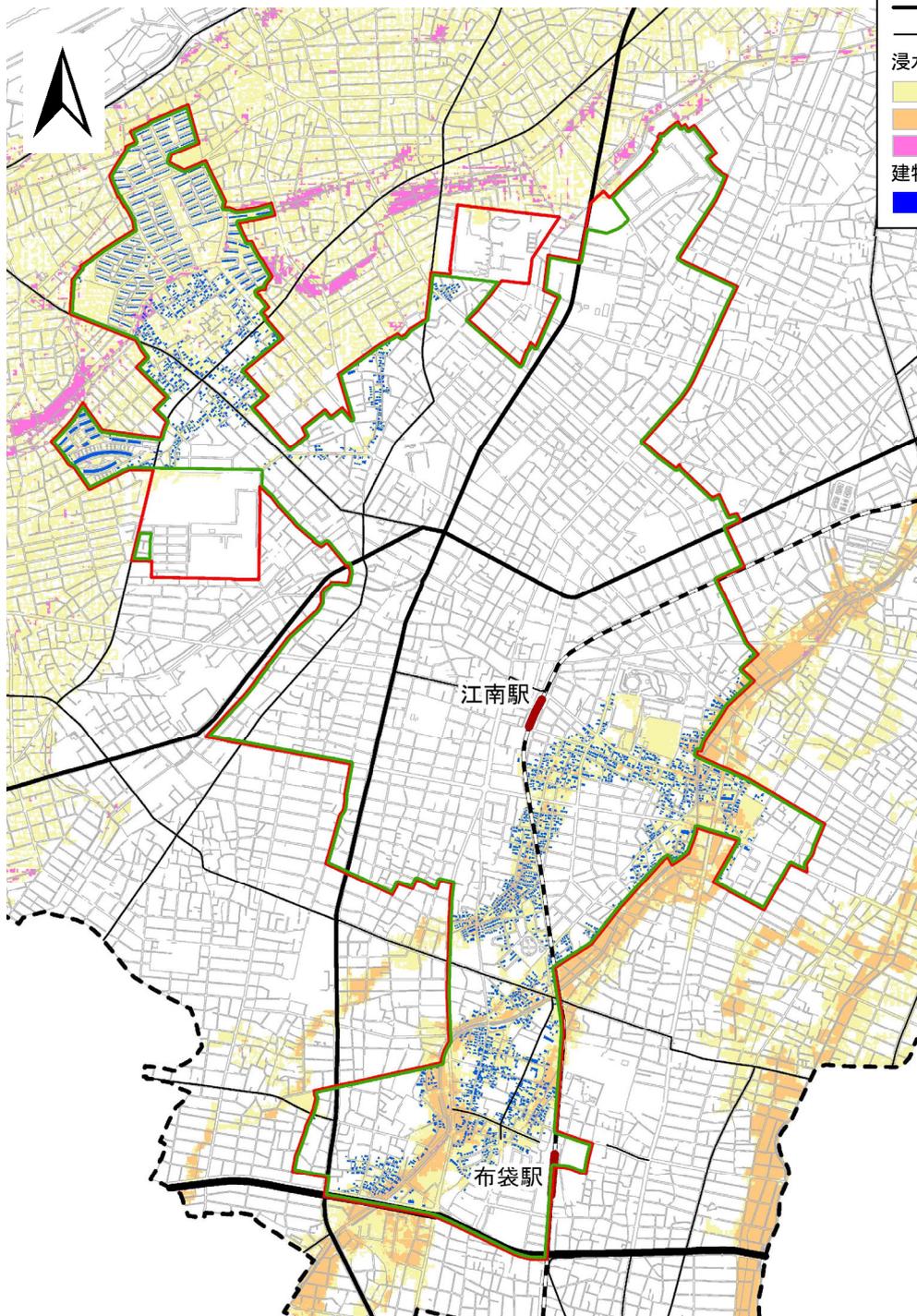


3) 浸水想定区域【計画規模：L1】×建物（住宅）

居住誘導区域の住宅の約2割にあたる約3,100棟が浸水想定区域（計画規模）内に立地しており、江南駅周辺や布袋駅周辺のほか、江南団地周辺で多くなっています。

		市街化区域	居住誘導区域
全域	棟	15,899	15,630
浸水想定区域内	棟	3,103	3,103
【計画規模：L1】	%	19.5	19.9

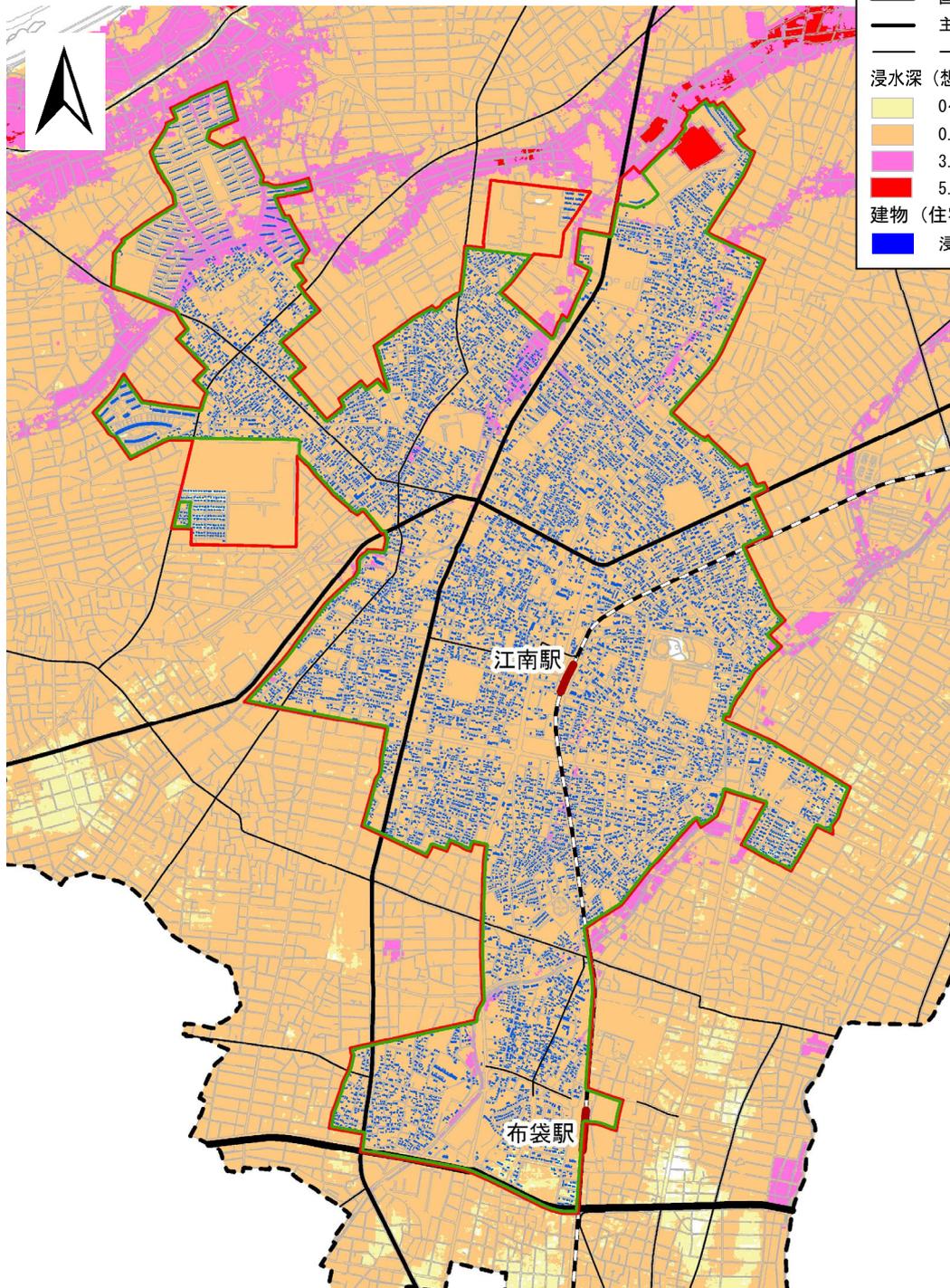
凡例	
	市街化区域
	行政区域
	居住誘導区域
	鉄道
	駅
	国道
	主要地方道
	一般県道
浸水深（計画規模）	
	0～0.5m 未満
	0.5～3.0m 未満
	3.0～5.0m 未満
建物（住宅）	
	浸水想定区域内



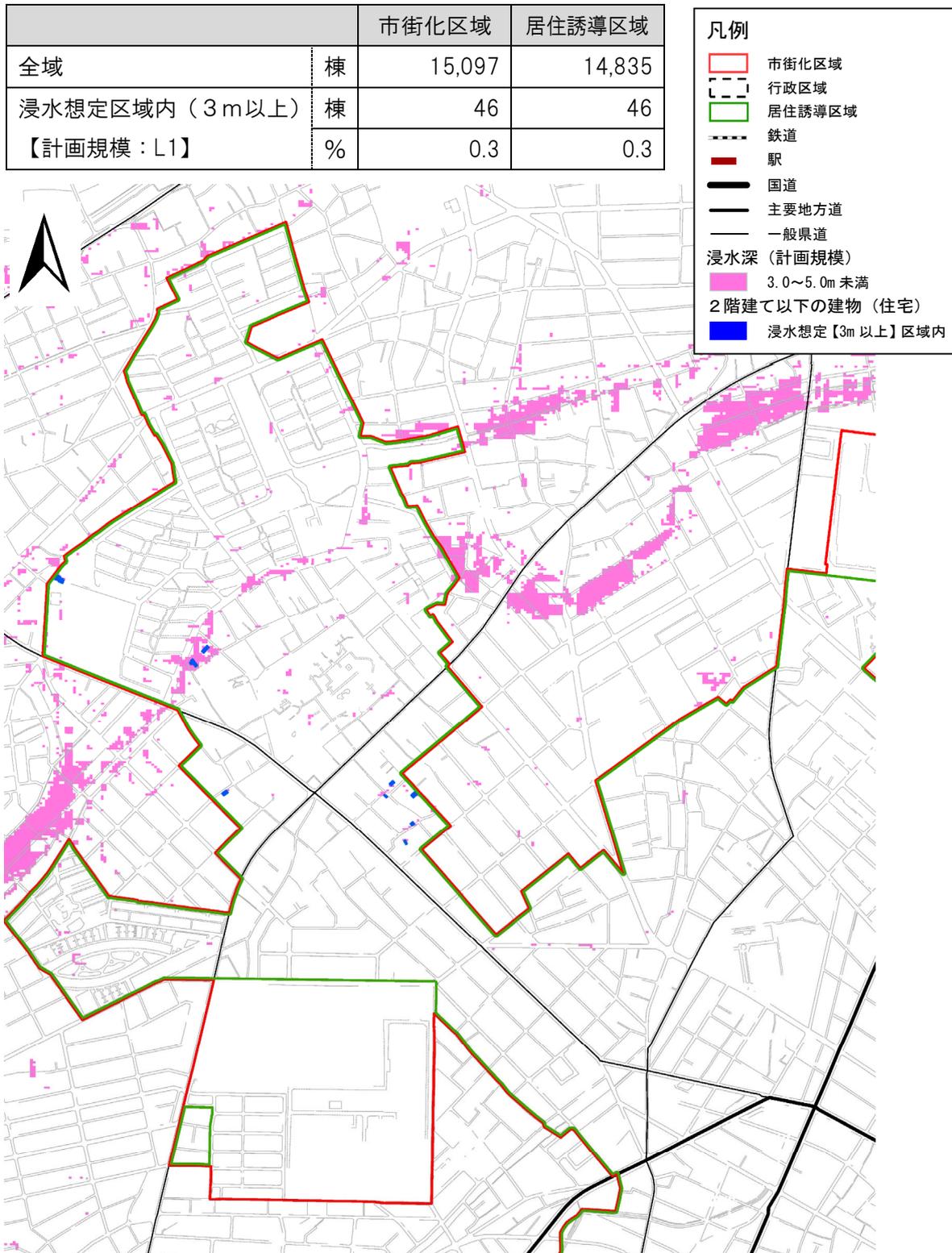
4) 浸水想定区域【想定最大規模：L2】×建物（住宅）

居住誘導区域全域が想定最大規模の浸水想定区域内に該当することから、居住誘導区域に立地している全住宅にあたる約 15,600 棟が浸水想定区域（想定最大規模）内に立地しています。

		市街化区域	居住誘導区域
全域	棟	15,899	15,630
浸水想定区域内	棟	15,899	15,630
【想定最大規模：L2】	%	100	100



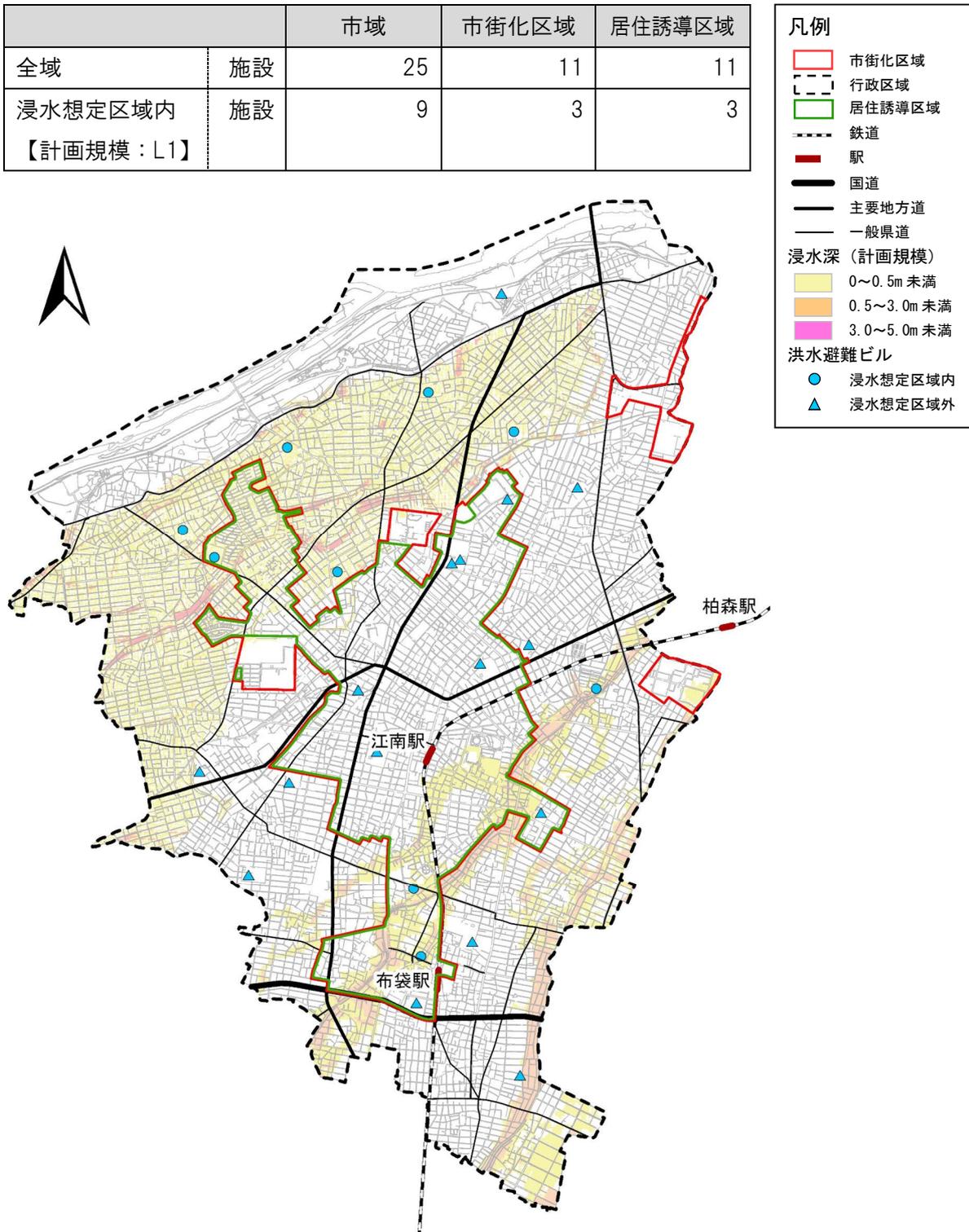
5) 浸水想定区域【計画規模：L1】で3m以上の浸水が想定される区域×2階建て以下の建物（住宅）→
 居住誘導区域においては、浸水深3m以上（2階部分の浸水に相当）となる浸水想定区域（計画規模）内に、2階建て以下の建物（住宅）が46棟立地しています。これらの建物（住宅）においては、垂直避難が困難となる可能性が高まるものと想定されます。



6) 浸水想定区域【計画規模：L1】×洪水避難ビル

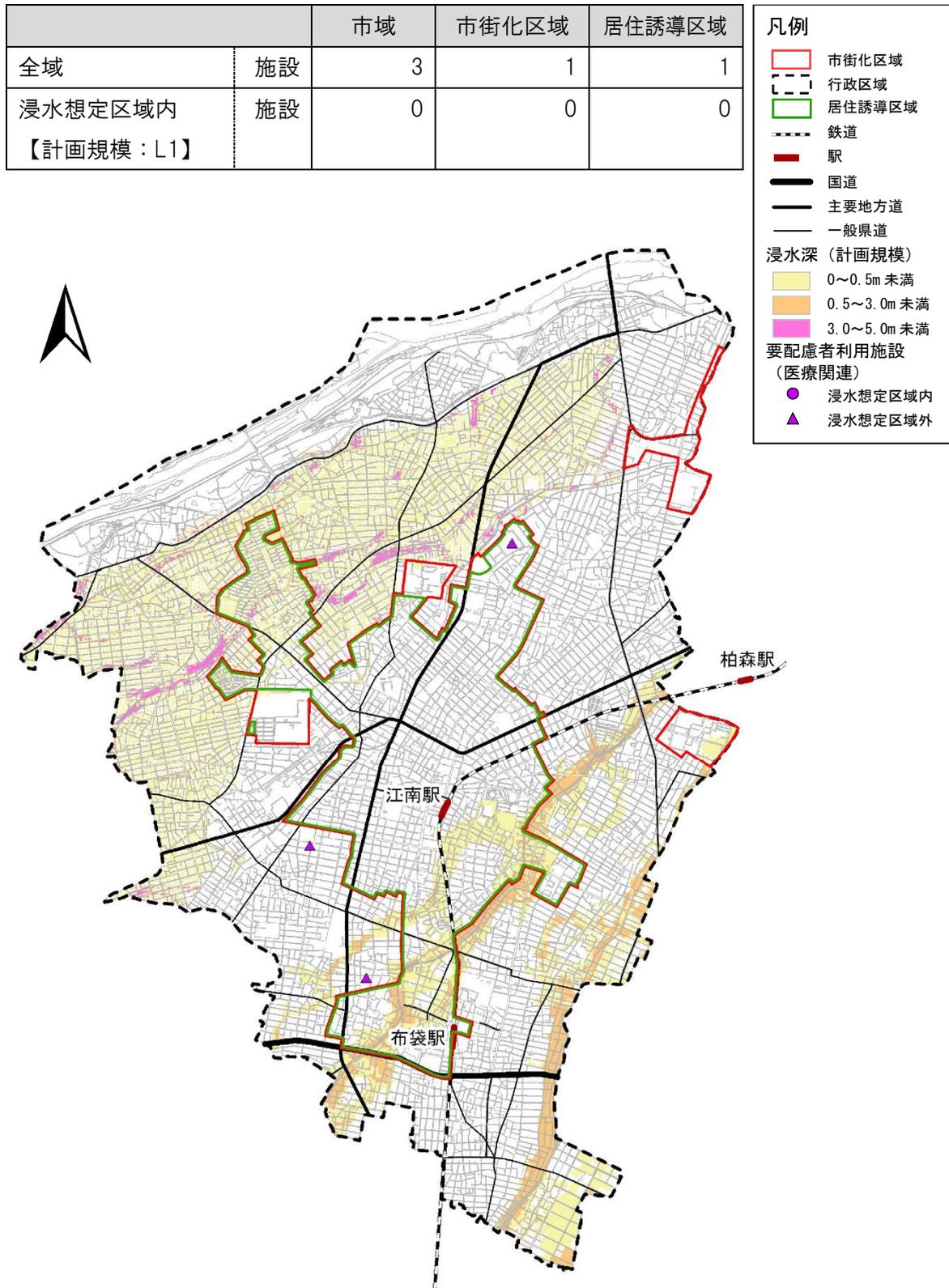
居住誘導区域においては、11施設の洪水避難ビルが立地しており、このうち3施設は計画規模の浸水想定区域内に立地しています。

		市域	市街化区域	居住誘導区域
全域	施設	25	11	11
浸水想定区域内 【計画規模：L1】	施設	9	3	3



7) 浸水想定区域【計画規模：L1】×要配慮者利用施設（医療関連）

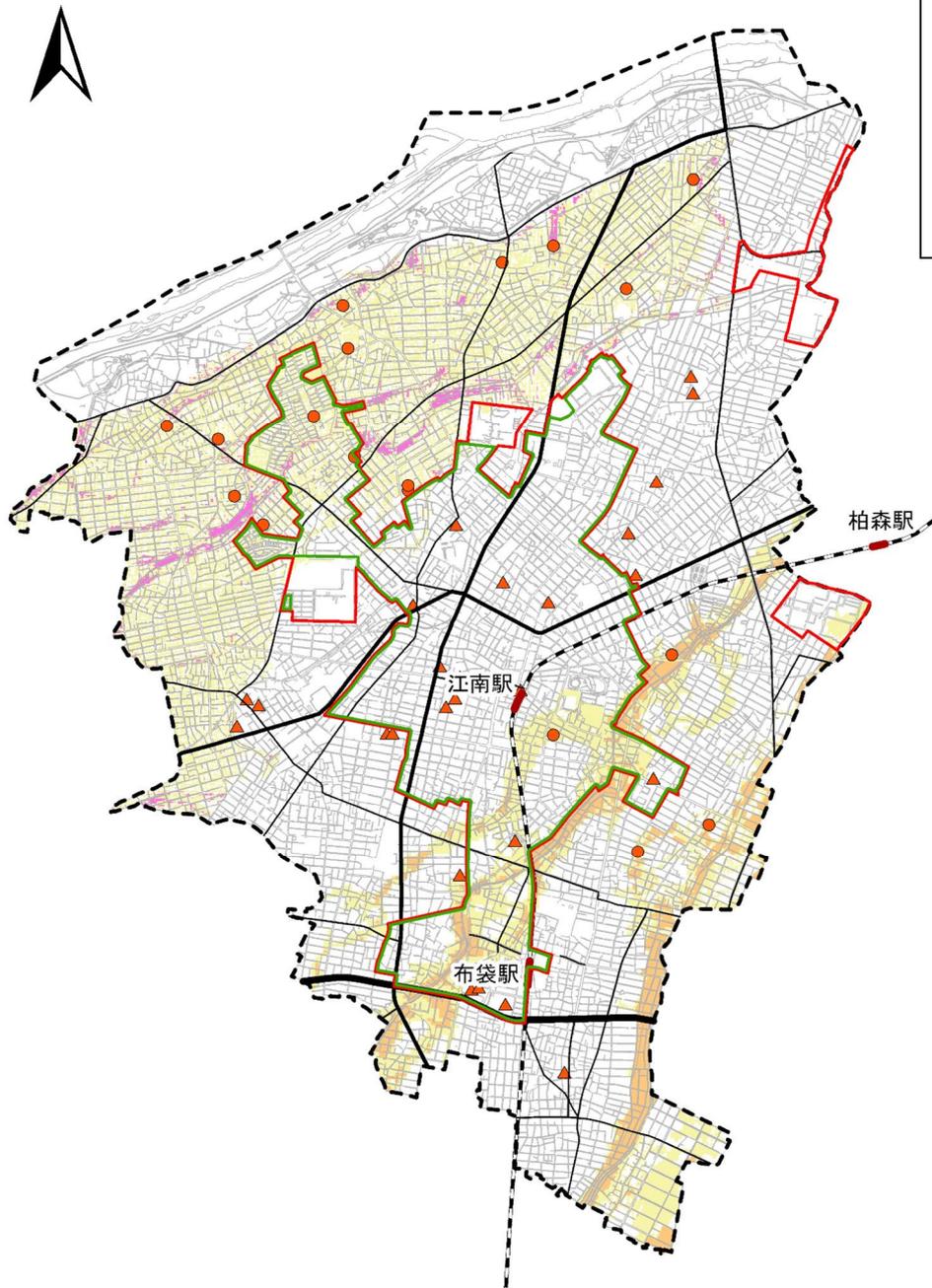
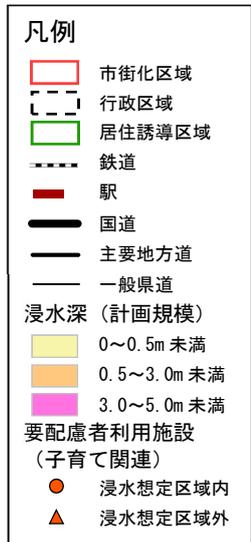
居住誘導区域においては、要配慮者利用施設（医療関連）が1施設立地しています。当該施設は計画規模の浸水想定区域外に立地しています。



8) 浸水想定区域【計画規模：L1】×要配慮者利用施設（子育て関連）

居住誘導区域においては、要配慮者利用施設（子育て関連）が17施設立地しており、このうち3施設は計画規模の浸水想定区域内に立地しています。

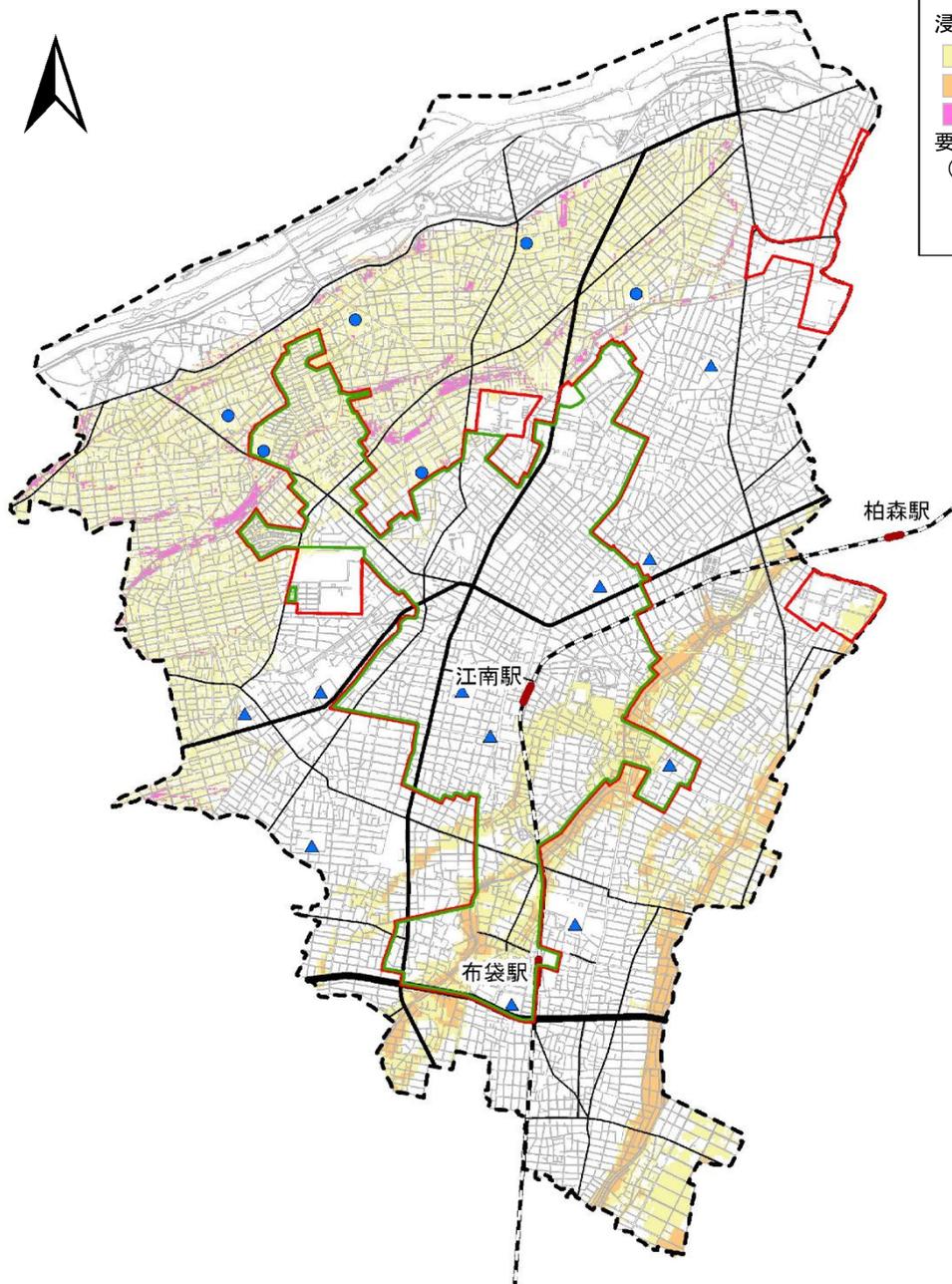
		市域	市街化区域	居住誘導区域
全域	施設	44	17	17
浸水想定区域内 【計画規模：L1】	施設	19	3	3



9) 浸水想定区域【計画規模：L1】×要配慮者利用施設（教育関連）

居住誘導区域においては、要配慮者利用施設（教育関連）が6施設立地しており、このうち1施設は計画規模の浸水想定区域内に立地しています。

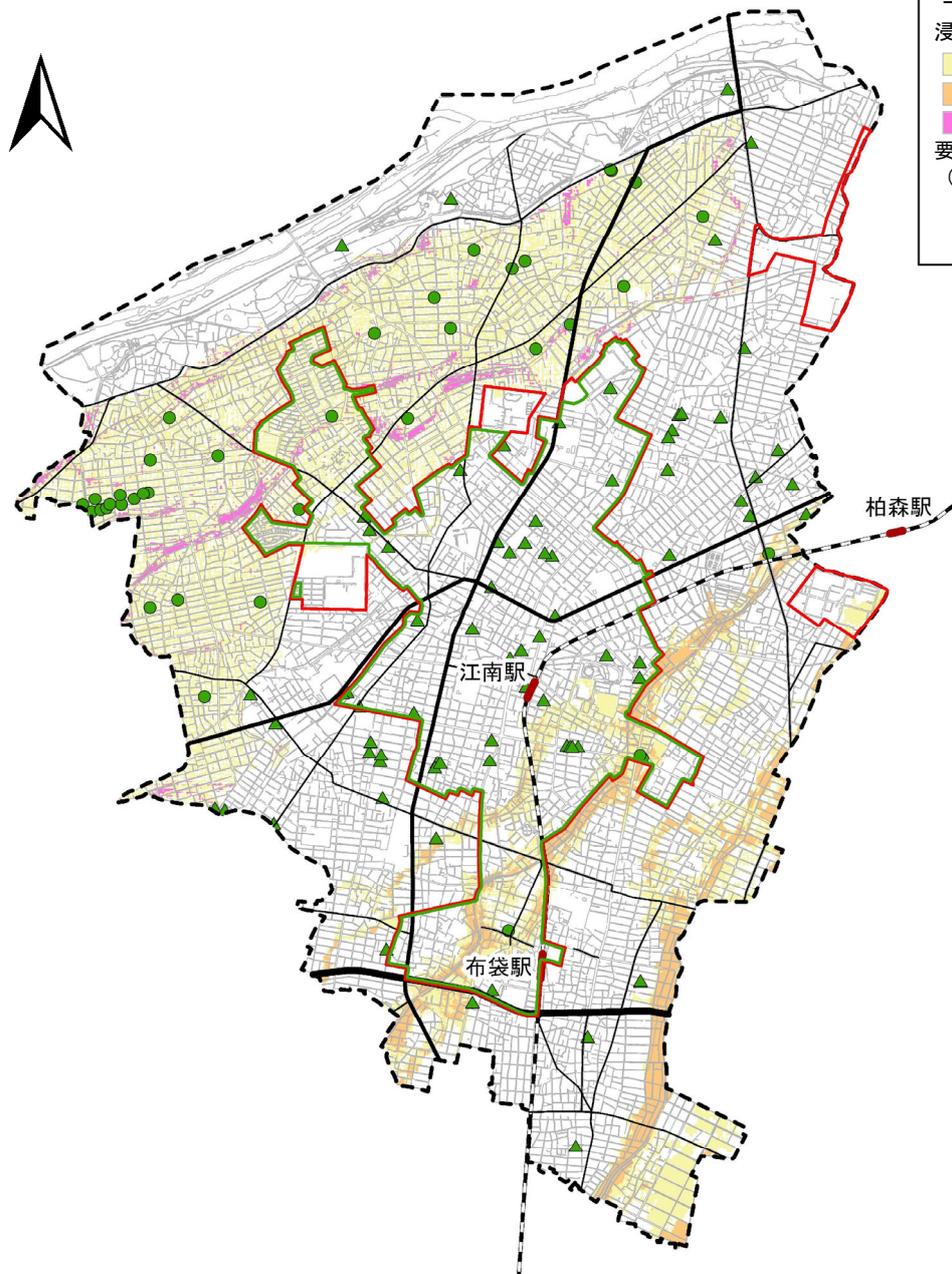
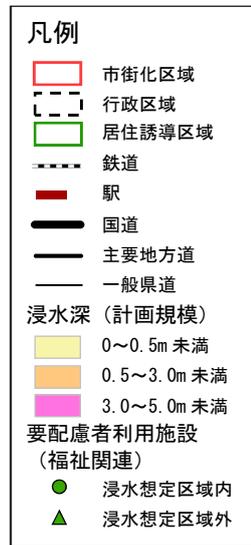
		市域	市街化区域	居住誘導区域
全域	施設	17	6	6
浸水想定区域内 【計画規模：L1】	施設	6	1	1



10) 浸水想定区域【計画規模：L1】×要配慮者利用施設（福祉関連）

居住誘導区域においては、要配慮者利用施設（福祉関連）が43施設立地しており、このうち4施設は計画規模の浸水想定区域内に立地しています。

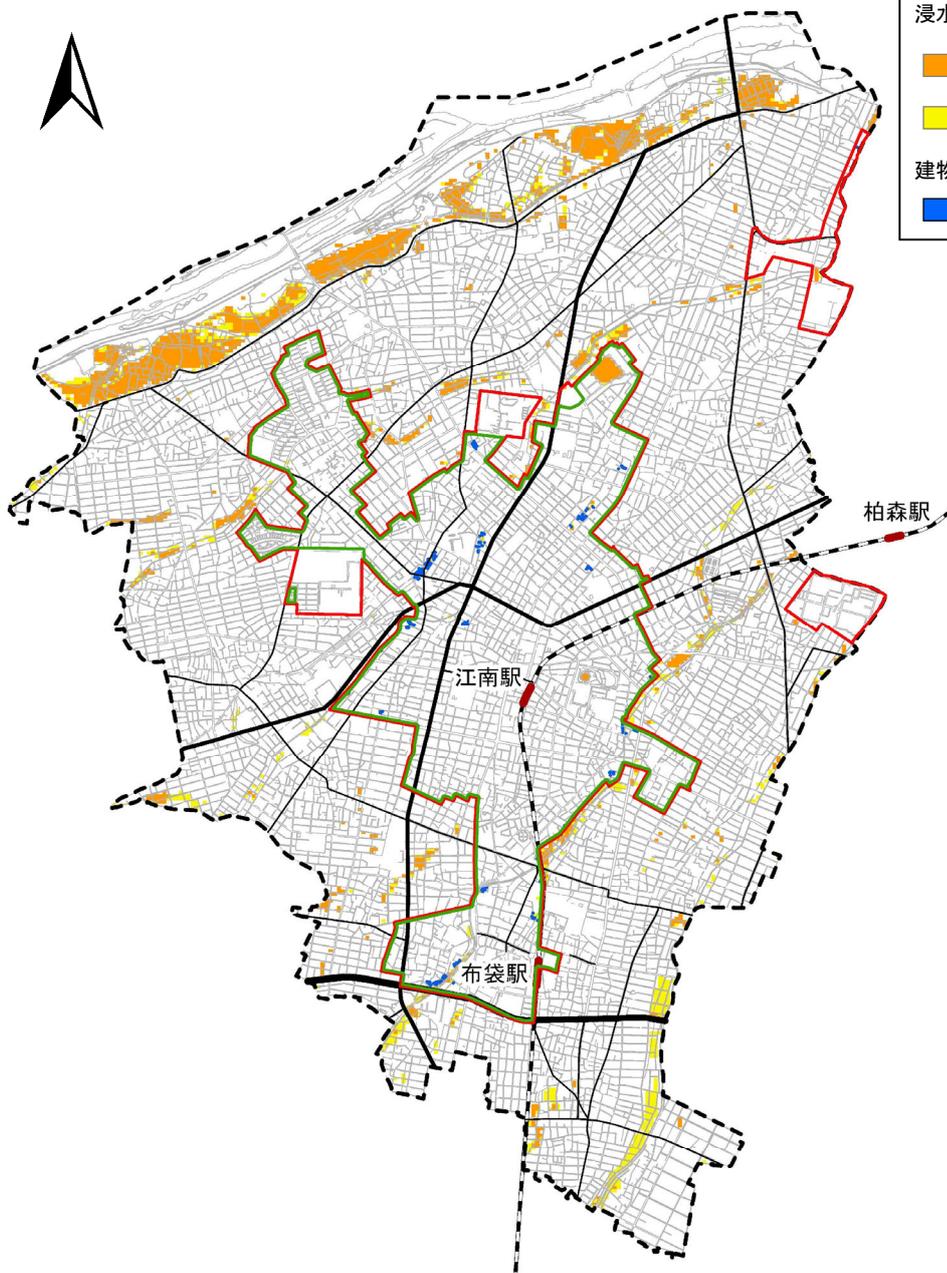
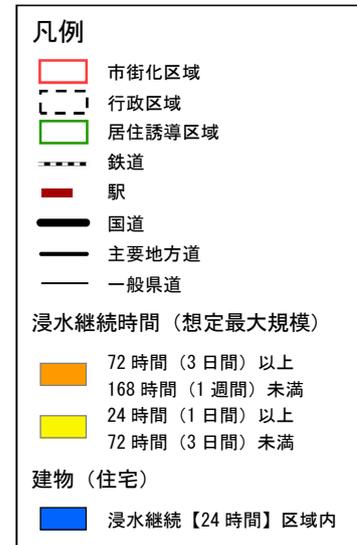
		市域	市街化区域	居住誘導区域
全域	施設	116	43	43
浸水想定区域内 【計画規模：L1】	施設	38	4	4



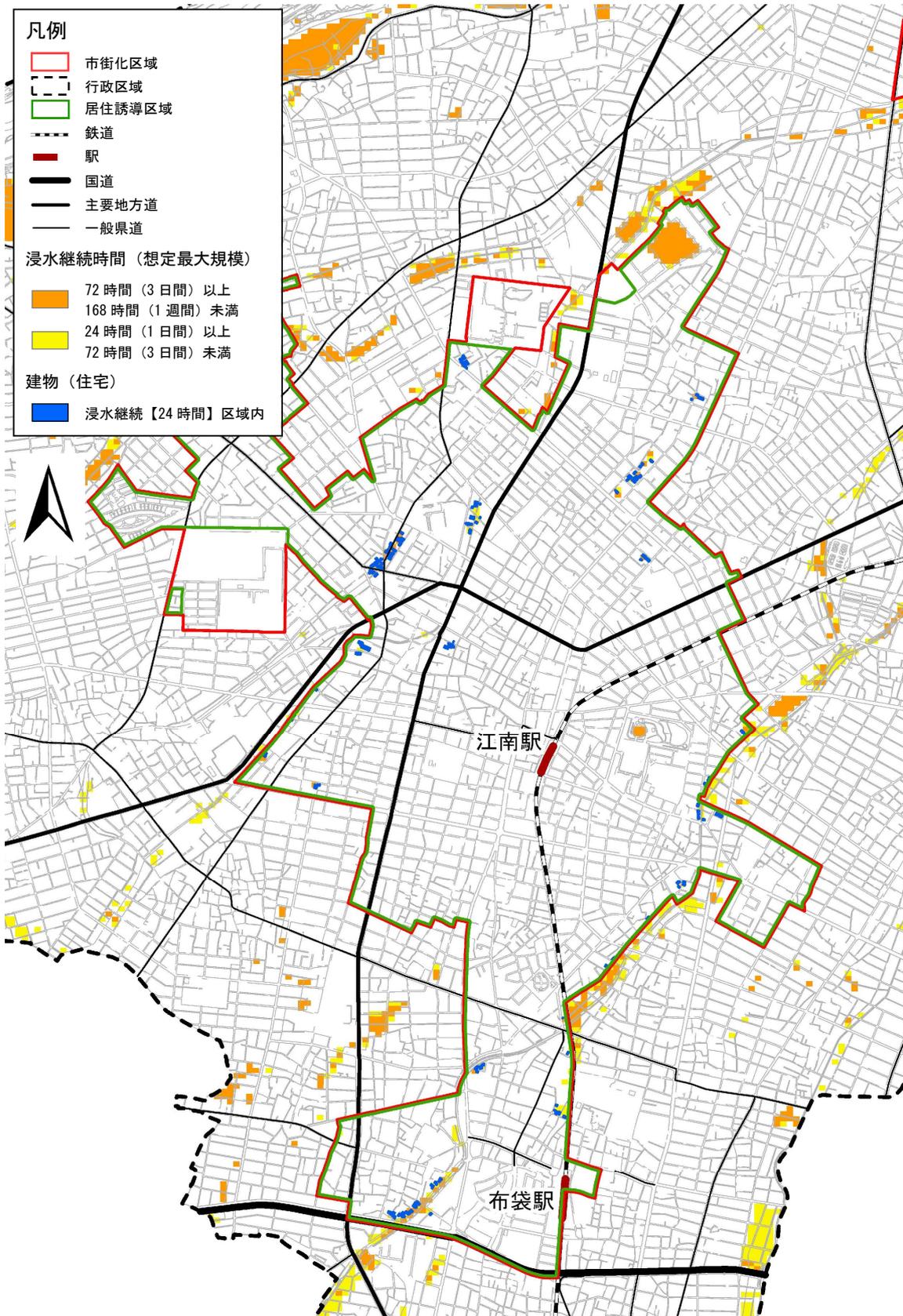
1 1) 浸水継続時間 24 時間以上【想定最大規模：L2】×建物（住宅）

居住誘導区域の住宅の 172 棟が浸水継続時間 24 時間（1 日間）以上の区域に立地しており、市街化区域内に点在しています。

		市街化区域	居住誘導区域
全域	棟	15,899	15,630
浸水想定区域内	棟	173	172
【想定最大規模：L2】	%	1.1	1.1

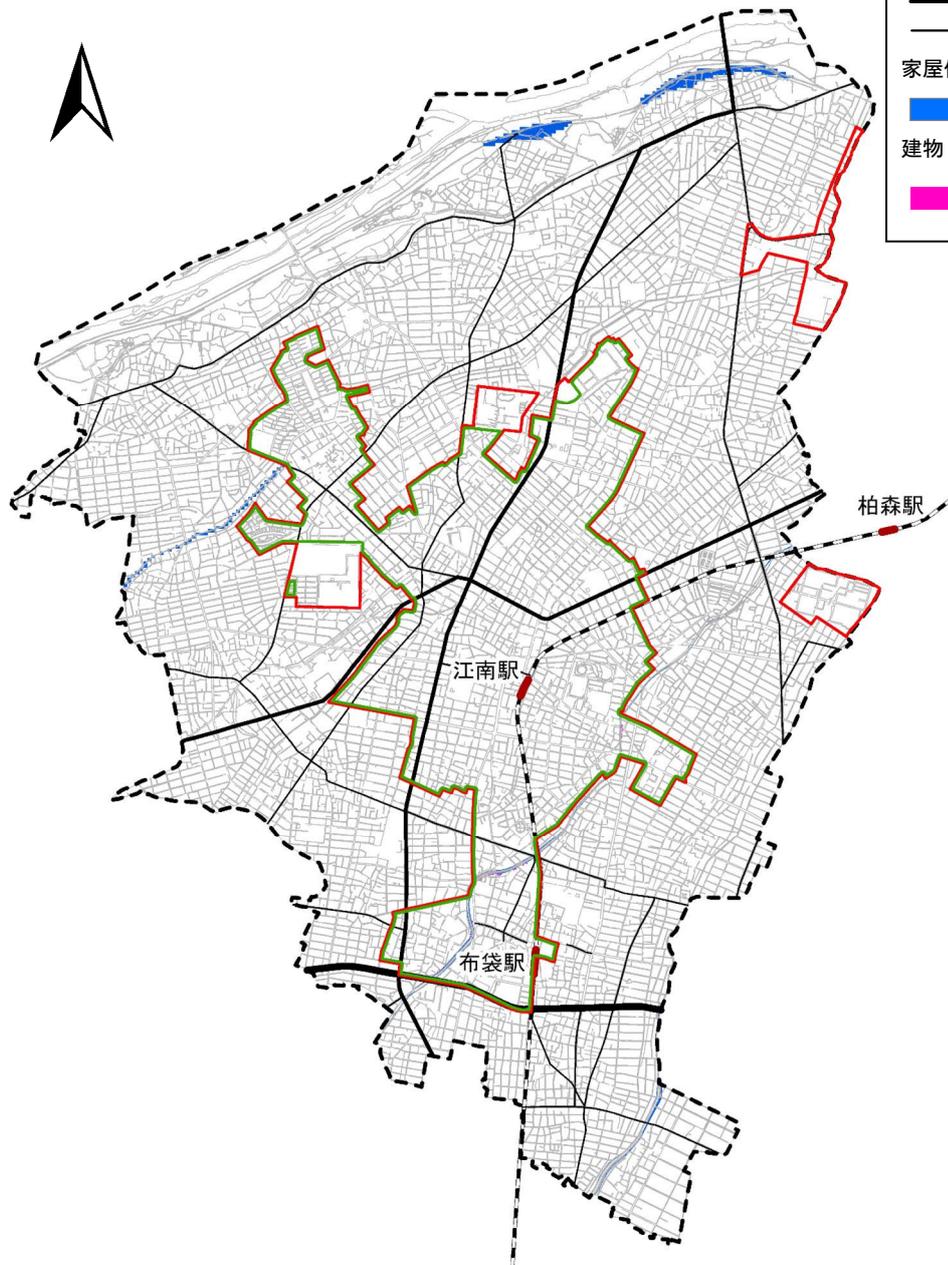
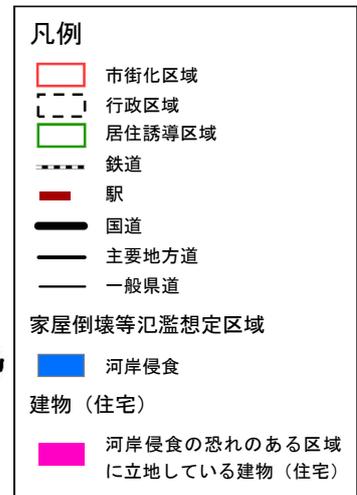


【市街化区域拡大図】



1 2) 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）【想定最大規模：L2】×建物（住宅）
 居住誘導区域の住宅の 22 棟が家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）内に立地しており、青木川沿いに点在しています。

		市街化区域	居住誘導区域
全域	棟	15,899	15,630
家屋倒壊等氾濫想定区域 （河岸侵食）内	棟	22	22
【想定最大規模：L2】	%	0.1	0.1



【青木川沿い拡大図】



1 3) 浸水実績×建物（住宅）

居住誘導区域の建物（住宅）の1割未満にあたる約1,000棟が浸水実績のある区域に立地しており、青木川沿い及び般若用排水沿いで多くなっています。

		市街化区域	居住誘導区域
全域	棟	15,899	15,630
浸水実績区域内	棟	1,037	1,035
	%	6.5	6.6

